

大川の河底低下により  
使命を失った旧用水とり入れ口

た。

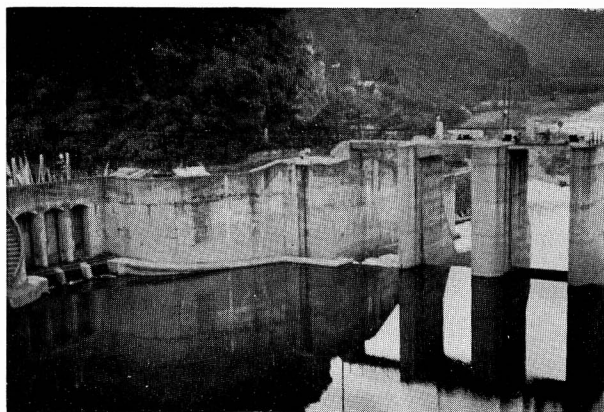
この大川筋の用水に対して濁川よりは下郷堰を揚げ、宮川よりは三堰を揚げて、扇状地末端の湧水と共に、北会津村の用水としている。

## 二、大川堰の開きくと用水配分

この馬越よりの用水堰は昭和六年十一月岩崎堰・本郷堰宇津呂堰三堰の合同で始められ、第一期工事は六千万円で翌昭和七年起工、つづいて第二期工事にわたって行なわれた。

この工事は馬越にダムをつくり、こちらは大川堰として最大七・一七、最小六、二七七の水を水門にひきこむ。これに対して、向い側の旧門田地区へひく門堰へは最大四・六一、最小三・五一を分けることになっている。

この用水堀は丘をくりぬいて、山麓の河岸段丘の上にあげ、中途窪堰四カ所に〇・四一五を分水しながら、延々六、五四七メートルを



大川馬越ダムの現在の用水とり入れ口